



## 臨床医がすすめる図書館資料 —代謝・内分泌学—

吉岡 敬治

### I. はじめに

代謝・内分泌学は、他の分野と較べ比較的地味な分野であり取っ付きの悪い学問かもしれない。しかし、私自身もそうであったが一旦その専門に入るとその魅力は深遠であり興味は尽きない。どの分野でもそうであるが、とりわけ代謝・内分泌学の臨床医学は基礎医学に立脚しておりそれとともに進歩してきた。近年、レプチンやエンドセリンを皮切りに古典的な内分泌腺以外の脂肪細胞や血管などの組織や細胞から次々と新規のホルモンやサイトカインが発見され、内分泌学の概念も大きく変わってきた。例えば、昔は単なる「脂肪の貯蔵庫」と認識されていた脂肪組織が最近では最大の内分泌組織として注目されている。一方、分子生物学の進歩は代謝・内分泌学の分野でも日進月歩で、疾患の原因遺伝子や疾患感受性遺伝子の成果が続々と報告されており、臨床の場では「テーラーメイド」医療として応用されるであろう。したがって、代謝・内分泌学の臨床を行うには基礎医学から臨床医学へのトランスレーションを十分理解することが重要であり、臨床雑誌だけ読んでいたのでは学問の進歩についていけない。本稿では臨床に役立つ雑誌のいくつかを紹介したい。

### II. 国内雑誌

最新の情報を得るには、関連する学会に出席することが最善であり、国内にとどまらず海外の学会にも積極的に出席することが望ましい。

毎年参加している米国内分泌学会は、基礎と臨床の研究発表をうまく連結してプログラムされており、大変分かりやすく刺激的で最新の情報が入手できる。学会機関誌として日本糖尿病学会誌「糖尿病」、日本肥満学会誌「肥満研究」は邦文誌で、日本動脈硬化学会誌「Journal of Atherosclerosis and Thrombosis」、日本内分泌学会誌「Endocrine Journal」は英文誌で、総説、原著、症例報告が掲載されており、前3者は臨床研究論文が多く、後1者は基礎研究論文が多いが本邦の学界の動向やガイドラインを得る上で重要である。一方、商業雑誌はテーマごとに特集が組まれることが多く、診断、治療、病因など臨床に直接かかわる今日的な内容が多く解説的で読みやすく参考になる。「医学のあゆみ」、「最新医学」、「日本臨床」、「ホルモンと臨床」などがあり、さらに「日本臨床」の増刊号は糖尿病、内分泌症候群、肥満がまとめてあり参考書代わりになる。また、糖尿病や脂質代謝に特化した商業雑誌である「Diabetes Frontier」、「Diabetes Journal」、「The Lipid」などは、最近の研究が概説してあり参考になる。

### III. 外国雑誌

最新の高質のエビデンスやエポック・メイキングな話題は、いわゆる Impact Factor の高い英文雑誌からでないとい得られない。まず、代謝・内分泌学は医学の一分野であるという認識の基に広く医学の最近の動向を把握しておく必要がある。その意味で医学一般雑誌である「New England Journal of Medicine」と

「Lancet」が第一に挙げられる。この二大雑誌は代謝・内分泌学においても新しい診断法、近未来的な画期的な治療法の大規模ランダム化試験が掲載されており質的に最も高い情報が得られ、臨床医として毎週目を通す必要がある雑誌である。また、「Journal of American Medical Association (JAMA)」、「Annals of Internal Medicine」も Impact Factor が高い雑誌であり臨床に役立つ内容が掲載されている。

代謝・内分泌学は、米国がイニシアチブをとっており、米国の学会雑誌が最も重要であることに異論はない。もっとも、最近では日本からのオリジナリティの高い研究が多いが、残念ながら日本の雑誌は Impact Factor が低い。糖尿病、代謝関係では米国糖尿病協会の機関誌である基礎の「Diabetes」と臨床の「Diabetes Care」および欧州糖尿病協会の「Diabetologia」の評価が高く、最新の病因論、治療法、遺伝子関連の研究などが掲載されており、糖尿病専門医ならば必読の雑誌である。その他に、「Metabolism」や英国糖尿病学会誌の「Diabetic Medicine」も abstract ぐらいは読んでおいた方が望ましい。また、糖尿病の臨床では高血圧、高脂血症、動脈硬化症を診ることが多く「Circulation」など循環器領域の雑誌も時々目を通す必要がある。内分泌学もやはり米国内分泌学会誌である基礎の「Endocrinology」と臨床の「Journal of Endocrinology and Metabolism」の二大雑誌が質も評価も高い。内分泌学は、神経内分泌、甲状腺、骨・カルシウム代謝、ステロイドホルモンなど従来から多岐に渡っているが、最近では adipo-science や vascular science のように領域はさらに広がっておりその進歩も著しい。米国のこの二大雑誌を読めば最近の内分泌学の領域は網羅されており、専門領域の最新情報のみならず専門外の学問の趨勢が理解できる。また、その姉妹誌として「Endocrine Reviews」と「Molecular Endocrinology」といった非常に Impact Factor の高い雑誌があり、前者はすべて総説で、読む

のに骨が折れるが内容は重厚である。後者は内分泌学の遺伝子関連の研究に特化した雑誌で、最新の研究が掲載されており、今後臨床でも必要な情報源になるであろう。その他にも「Journal of Endocrinology」、「Clinical Endocrinology」、「Hormone and Metabolic Research」などが有名な雑誌であるが米国内分泌学会誌ほど評価は高くない。

冒頭で述べたように代謝・内分泌学は基礎医学の土台が大きく、その成果が臨床医学に反映されるまでの時間は以前と較べ格段に早くなっている。医学を含め科学の新しい発見やエポック・メイキングな研究は最初に基礎科学雑誌に発表されることが多く、まず「Nature」、「Science」、「Nature Medicine」、「Nature Genetics」などは常に目を通しておく必要があるだろう。また、「Journal of Clinical Investigation」、「Proceedings of National Academy of Sciences of the USA」、「Journal of Biological Chemistry」なども最先端の基礎研究の成果が掲載されるので注目しておくべき質の高い雑誌である。さらに、最近創刊された「Cell Metabolism」は代謝分野を独立した「Cell」の姉妹誌で読みやすく専門医にとって重要な雑誌になるであろう。

#### IV. おわりに

インターネットの普及により必要な情報は瞬時に入手でき、今や医学情報も雑誌が届く前にオンラインで読むことが可能になってきた。限られた時間にすべての雑誌を読むことは困難であるが、急速な医学の進歩についていくには abstract だけでも目を通して要点を把握しておくことが大切であり、その中から臨床に役立つ情報を選択することが重要であろう。当院の図書室は、病院と図書委員の努力により上述した多くの雑誌が揃っており大変充実している。インターネットも便利であるが、以前のように図書室で椅子に腰をかけながらゆったりと雑誌を読む時間ももっとあればよいと思う。